



さかなを食べよう  
ぎょしょよく教育で  
まちを元気に

四国一のカツオの水揚げ量を誇る深浦港を擁し、養殖マダイも全国市町村別で第2位の生産量を誇る我が愛南町。  
水産業を基幹産業とする本町では、産・官・学・民の連携による「ぎょしょよく教育」に積極的に取り組んでいます。  
魚離れが進み、消費量の落ち込みが懸念されているなか、「ぎょしょよく教育発祥の地 愛南町」として、本町の水産業活性化と地域ブランドの確立の一翼を担っています。



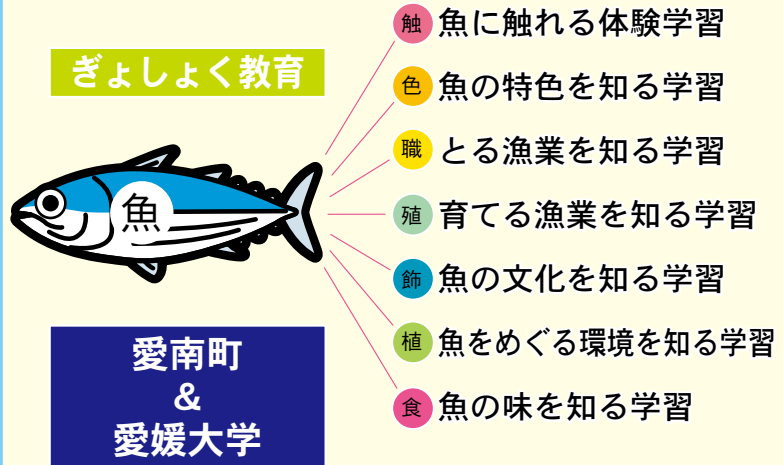
## ぎょしよく教育とは

「ぎょしよく教育」とは、愛媛大学が提案したプログラムで、その内容は、魚を食べることに特化した「食普及」とは異なり、魚の生産・流通・環境・文化など、魚をめぐる諸事情を体系的に、実体験などを通じて学習するものです。平成22年度からは、「義務ぎょしよく」として、水産課水産振興室が中心となり、幼・保育所、小・中学校で年1回以上のぎょしよく授業を実施しています。



「ぎょしよく教育」には、出前授業を通じて水産業や水産物に対する正しい知識、興味、関心の増大をめざす側面と、地域水産業に対する理解の拡大を通じて地域理解を深め、地域への愛着や誇りを醸成するという側面とがあります。

## 「ぎょしよく教育」 7つのコンセプト



## 愛南ぎょレンジャーも活躍しています

愛南町の特産品をイメージして生まれたキャラクター「ぎょしよく普及戦隊 愛南ぎょレンジャー」。町内小学生の地域学習のために、小学生自らが愛南特産の水産物のイメージからデザインし、南宇和高校の美術部の皆さんにアレンジしていただいて完成しました。町内外に本町の水産業を広くPRするため「愛南ぎょレンジャー」は活躍しています。



上段左から  
ヒジキブラック  
アコヤピンク  
ヒオウギパープル  
カキアイボリー  
下段左から  
ブリグリーン  
カツオブルー  
タイレッド

## ぎよしよく教育の取組内容



タイの養殖場見学



魚に触れる体験

幼稚園や保育所では、ぎよしよくイベントを開催し、魚に触れたり、親子で調理をして会食したりしています。

小学校では、社会科の時間に水産業を学習するのに合わせてぎよしよくの授業を行い、体験学習や現地見学により愛南町の水産業を学習しています。

また、中学校では家庭科の学習で、魚を使った献立で魚をさばく練習をしながら調理実習を行っています。

このほか、ぎよしよく教育の拠点「うみらいく愛南」では、定期的に『うみらいくキッチン』を開催し、魚のさばき方教室や新鮮な水産物を材料にしたレシピを紹介する料理教室を行っています。



うみらいくキッチン



調理実習

## 出前授業も大好評

現在、ぎよしよく出前授業として松山市、大洲市など県内はもとより、東京都でも出前授業を行っています。

子どもたちに水産業のことを少しでも多く知ってもらうために工夫をこらした授業を行っています。授業後には「肉だけでなく魚をもっと食べるようにしたい」といった感想が多く聞かれます。

また、都内の学校給食の食材に愛南町の水産物を利用していただいていることも、その成果の一つです。



東京都内の小学校での「ぎよしよく出前授業」の様子

## 子どもたちの声



一本松小学校5年  
中西海翔くん

子どもたちの声

ぎよしよく教育で、カツオの一本釣りの疑似体験をしましたが、あんなに難しいものだと知りませんでした。説明を聞くと簡単そうに思いましたが、いざ体験してみると思ったようにできませんでした。実際には、海で波にゆられながら釣るので、もっと難しいことなのだと分かりました。

ぼくは、カツオの刺身が大好きです。これから食べるときは、漁師さんの思いを考えながら味わいたいと思います。今度、機会があれば、カツオのさばき方に挑戦してみたいです。



緑小学校5年  
梶田真秀くん

僕たちに魚についてたくさんのお話を教えてくださってありがとうございました。魚のさばき方や鯛ピザロール、ひじきサラダの作り方がよく分かりました。

また今度タイをさばいて、鯛ピザロールや鯛そつめんを作ってみようと思いました。また、ひじきサラダも作ってみたいです。

## 見えてきた課題

子どもたちの魚離れが問題とされていますが、「ぎよしよく教育」を通して分かったことは、子どもたちは魚が大好きだということです。

「調理が面倒」、「骨が危ない」、「レシピが分からない」などの理由で魚を調理することから遠ざかっていませんか。

ぜひ、子どもたちと一緒に魚料理に挑戦してみてください。



鯛の形をした骨「鯛中鯛」を探す鯛のかまの塩焼きが学校給食の人気メニューの一つです。



## 今後の取組

愛南町ぎよしよく普及推進協議会  
竹田英則会長の話



全国でも屈指の生産量を誇る愛南町の水産業。しかし、町民の皆さんにはあまり知られていません。そこで、「ぎよしよく教育」を行うことで愛南町の水産業に関心を持っていただき、さらに、地域学習を通して愛南町のすばらしさに気付いてほしいと願っています。そのためにも、幼児期から学習することが大切で、幼児期で魚に触れ親しみ興味・関心を持ち、小学校期に本町の水産業について学習して知識を高め、中学校期では、みんなが魚のさばき方を覚え料理できるように取り組むといった過程が重要だと思っています。

成人の方にも、地域を見つめ直す機会に、また、繋がり場としていただき、幼児から成人まで世代を超えた生涯学習としても「ぎよしよく教育」を行っていき、地域も水産業も元気いっぱいにしたいと考えています。